

目的 昨年の発表に引続いて、鹿鳴館時代を代表した服飾といえるバウンスル衣裳を再度とりあげた。今年度は特に、現在では他に例をみない小袖地を利用した特異なバウンスル・ドレス(鍋島報効会管蔵)について、その構成、縫製並びに付属品等について調査し解明したので報告する。

方法 実物資料を調査し、復元による考証

結果 小袖地(白綸子單配花模様)の小幅を有効に生かして、バウンスル・スタイルにまとめられている点に意義がある。

小袖地の意匠性だけでは洋服的感覚が弱いため、西歐的な装飾法で付加価値を与えて、ドレスの雰囲気を表出している。

縫製は機能によってミシンと手縫いに縫い分けてある。

(昨年発表した“鹿鳴館時代の衣裳について”を第1報とする)